

小学3年1組 音楽科学習指導案

指導者 神門洋子

石見神楽「大蛇」の鬼囃子を聴き、神楽の表現の良さについて話し合う活動をしたことは、リズムの反復や速度・強弱の効果で神楽のよさを生み出していることを理解することに有効であったか。

1 題材名 おはやしの音楽の特徴を感じ取ろう

2 授業の構想

(1) 1学期に和楽器アンサンブル「百人太鼓」の鑑賞をした。下記は児童の感想である。

「百人太鼓」を聴いてわかったこと。①ドン(4分音符)とドコ(8分音符)のリズムでたたいていること②リズムパターンを繰り返していること③強弱がついていること④みんなで息を合わせて力一杯たたいていること⑤かけ声が入っていて盛り上がること⑥ふえの旋律があること。(児童A)

1学期に音楽づくりで和太鼓アンサンブルに親しんだ。一人2小節のリズムパターンをつくり、グループで繰り返して演奏した。自分がつくったリズムに対して自分の思いを友だちに説明したり、友だちのつくったリズムをよく聴いて演奏したりする等学び合う姿が見られた。グループで活動することは初めてであったが、一人ひとりが自分のつくったリズムを伝え合ったり、そのリズムをどのように友だちとつなげていくか話し合ったりしていく中で、協力していく必要性や拍の流れを感じて演奏する技能の確実性に気づき、一体感を求めて何度も練習する姿が見られた。また最後の一打がそろそろと気持ちがいさづきりしたり、太鼓の響きが体に響いたりして、達成感から笑顔があふれ、感動体験を共有できた。展開計画の最後に、大勢で同じリズムをたたく「百人太鼓」の鑑賞をし、鑑賞の能力を考察する場を設定した。上記の感想は、箇条書きではあるが、ドン(4分音符)とドコ(8分音符)のリズムの特徴やそれらで組み合わせたりリズムパターンの繰り返しなどが聴き取れており、和太鼓のリズムづくりやリズムアンサンブル活動を通して得た、リズムを聴き取る力や繰り返しや強弱などの音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取る鑑賞の能力が高められたことがわかる。また演奏に必要な「息を合わせる」ことや「かけ声」で盛り上がることや、「ふえ」という他の楽器の音色も感得できていた。他の児童の感想では、「また聴いてみたい。」「また太鼓がたたきたい。」と自ら進んで音楽を聴こうとする意欲や表現しようとする意欲の高まりも見られた。

このように3年生では郷土や日本音楽を、表現や鑑賞を通して、その特徴を感じ取るようにしていく。

日本音楽について子どもたちは、2年生で「わらべ歌風の旋律づくり」で即興的に旋律をつくり、音楽の仕組みの問いと答えを感じ取る力を養った。また、わらべ歌を歌ったり遊んだりして親しんできている。

歌唱では、1学期に「茶摘」を友だちと手合わせをして楽しんだり、2学期に日本古謡の「うさぎ」では歌ったり演奏したりして5音階の旋律の特徴を感じ取った。

本題材で取り扱うお囃子の学習は、児童にとって初めてである。しかし、松江にはどう行列という郷土芸能が息づいている。どう太鼓・チャンガラ・笛から成るお囃子があり、聴いたり触れたりしていて耳なじみなことから、お囃子の音楽に興味をもって聴くことができるであろうと期待している。

(2) 本題材では神楽の特徴的な調子(神囃子と鬼囃子)を聴き比べたり、2つのお囃子(神田囃子と神楽のお囃子)を聴き比べる鑑賞を通して、締太鼓の繰り返すリズムの特徴に気づいたり、鑑賞から感じ取ったことを言葉で表したりして郷土の音楽の特徴や演奏のよさを理解する能力を伸ばすことをねらいとしている。

今回の学習指導要領の改訂において中学年の鑑賞教材に「和楽器の音楽を含めたわが国の音楽など」を取り入れるように改められた。わが国の郷土の伝統音楽の指導を一層充実させることが求められてい

る。

また、「共通事項」が新設された。この「共通事項」は、表現活動や鑑賞活動の支えとなる指導内容を示したものである。具体的には、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みなどを聴き取ることやそれらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさなどを感じ取ることが大切であると示している。

そこで郷土の音楽の学習において、神楽のお囃子を主教材に取り上げる。お囃子とは、お祭りや踊りなどを盛り上げることばや楽器による音楽のことである。島根県には250を超える団体による神楽が伝承されている。出雲神楽、石見神楽、隠岐神楽と地方によって違いはあるが、神話を題材にし神楽はその土地の人々によって受け継がれている。この神楽は、舞と楽とが一体となって演じられる。楽とはお囃子を指し、楽器は大太鼓・締め太鼓・笛・手打鉦からなり舞を盛り上げている。

お囃子を主教材にしたのは次のような理由からである。①繰り返すリズムパターン(反復)を聴き取ったり表現したりして、日本の伝統的なリズムや旋律を感覚的に捉えることができる。②口唱歌で親しむことができ、読譜が苦手な児童も取り組める。③各県にいろいろなお囃子があり比較して聴くことができる。④神楽では、アップテンポの鬼囃子とゆるやかなテンポの神囃子の違いに気づかせ、石見神楽のDVDから「大蛇」のお囃子の特徴(リズム 反復 速度 強弱)を感じ取ることができる。⑤神楽が神話に基づいており、話の転換とともに音楽が変化することに気づいて聴くことができる。⑥神楽のよさを体の動きで表現することが子どもたちの実態に適しており、主体的に音楽にかかわることができる。

本題材で郷土の音楽の特徴を感じ取ったことが、4年生ではお囃子の音楽づくりへ、高学年では日本・アジア・世界、中学校では諸外国の様々な音楽のよさや特徴を感じ取ったり理解したりしていくことに繋がっていく。

また、これらの鑑賞で身につけた能力は、歌唱・器楽・音楽づくりの学習活動にも生かされると考えている。

(3) 題材を通して児童に身につけさせたい〔共通事項〕を反復とし、共通の課題設定とする。また雰囲気の違いの違う2つのお囃子を聴き比べ、特に締め太鼓のリズムに注目して聴くと、リズムや速度や反復の工夫があることに気づくことができる。ここでは、それらの工夫がお囃子の音楽を盛り上げているよさであることを理解することをねらい、授業を以下のように展開する。

第1次では、「大蛇」の冒頭部分を聴き、「どんな様子が思い浮かぶか」問いお囃子に興味をもって聴かせる。雰囲気の違いの違う2つのお囃子(「鬼囃子」と「神囃子」)を提示し、「どちらが聴こえるか」〔共通事項〕のリズムに焦点を当て、締め太鼓のリズムに注目して聴かせる。「鬼囃子」では、速度が速いこと、一方「神囃子」では、ゆったりとしたテンポやのんびりとした感じなどその違いを感じ取らせる。実際に締め太鼓のリズムを演奏することで、お囃子の躍動感を感じ取ったり、2つの調子の違いを体で感じ取らせたりしていく。3時間目では、「大蛇」の戦いのシーンを聴き、「大蛇」の鬼囃子が長く続く反復に着目し、「大蛇」の戦いを表現するにはお囃子を同じリズムで繰り返すことで緊迫感が増すことや速度や強弱の工夫で伝えていることに気づかせたい。同じリズムが長く続くと音楽がどう伝わるのか感じ取ったことを話し合う場では、自分の言葉で話したり、理由を述べたりできるよう助言していく。

第2次では、東京に伝わる神田囃子と神楽を比べて聴き、速度の違いやそれぞれのお囃子の特徴に気づかせる。神楽と違って速度の圧倒的な速さにびっくりするだろうが、神田囃子も繰り返す締め太鼓のリズムがあることに気づかせたい。唱歌やばちで練習してから鑑賞することで聴き取れるようにしていく。また、何度も聴くことで大太鼓・笛・当たりがねの楽器の音色にも気づかせたい。最後に、鑑賞のまとめとして「神楽」の紹介文を作成する。神楽のよさや特徴を自分の言葉でまとめ、郷土で大切に受け継がれている音楽を守っていく心を育みたい。

本時は、石見神楽の「大蛇」の戦いのシーンを聴き、鬼囃子の反復の長さ気づかせる。児童は、八分音符で続く♪♪♪♪♪♪♪♪のリズムが生み出す音楽の緊迫感に気づくと予想される。「戦いをもりあげるためのおはやしのひみつを聴き取ろう」とねらいを提示する。まずワークシートを用意し、鬼囃子が長いとどんな音楽に伝わるか自分の考えをもたせる。話し合いの場では、個人の考えを全員で聞き、一人ひとりの感じ方のよさを認め合いたい。個⇄全体を行きつ戻りつしながら、自分の考えと友だちの

感じ方と照らし合わせて児童の感じ方を広げさせたい。また、児童椅子の上にゴムを置き、鬼囃子を太鼓のバチで長さを変えてたたく活動を通して、速度や強弱や反復があつて緊張感が生まれていることを感じ取らせたい。この学び合ったことをもとに映像を観させ、自分たちが感じ取ったことを確認していく。映像から神楽の迫力や舞と音楽の一体感を感じ取り、島根には素晴らしい芸能が息づいていることに気づかせたい。

3 展開計画（全4時間 本時 3/4）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	神楽の囃子の表現の違いを感じ取る	1	・神楽「大蛇」の囃子の神囃子と鬼囃子を比較鑑賞し、締太鼓のリズムのおもしろさや速度の違いが生み出す効果に気づき、郷土のおはやしについて興味をもつ。
		2	◇神楽「大蛇」の囃子の神囃子と鬼囃子を簡易太鼓で演奏し、その違いを感じ取って、互いの意見を伝え学び合う。
		③	◇神楽の「大蛇」の戦いのシーンを鑑賞し、「大蛇」の長く続く鬼囃子のよさに気づいて互いの意見を伝え、速度や強弱や反復により神楽の表現が高まっていることを理解する。
2	神田囃子を味わおう	4	・神田囃子と神楽のお囃子を比較鑑賞し、共通点や違いについて感じ取ったことを言葉で表したり、締め太鼓のリズムを演奏したりして、速さのおもしろさを感じ取る。

4 評価計画

次	時	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1	神楽「大蛇」の神囃子と鬼囃子の違いに関心をもって聴いている。			2つのお囃子のリズムのおもしろさや速度の違いが生み出す効果をとらえて聴いている。
	2		神楽「大蛇」の鬼囃子や神囃子を演奏しながら表現の工夫をしている。		
	③		神楽「大蛇」の鬼囃子の鑑賞を基に、反復と強弱の効果を生み出しながら演奏している。		
2	4	神田囃子と神楽の囃子の共通点や違いに関心をもって聴いている。			繰り返すリズムのおもしろさや楽器の重なりによる一体感や速度の違いのおもしろさに気づき、楽曲全体を味わって聴いている。

5 本時の学習

(1) ねらい

神楽「大蛇」の鬼囃子を聴く活動を通して、神話と音楽がぴったり合っているおはやしの工夫について気づくことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 前時の学習を思い出し、本時の学習のイメージをもつ。</p> <p>・おろちが出てきて戦うよ。</p> <p>2. 本時のめあてを知る。</p>	<p>・「大蛇」では鬼囃子と神囃子がありそれぞれリズムや速さに特徴があったことを確認する。</p> <p>・それぞれのお囃子から受ける感じについてストーリーと絡めて感じ取っていた内容も確認したい。</p> <p>・本時は「大蛇」の戦いのシーンを聴くことを確認する。</p>
<p>戦いをもりあげるためのおはやしのひみつを聴き取ろう。</p>	
<p>3. 「大蛇」の鬼囃子を聴き、どんな様子か互いの意見を発表して学び合う。</p> <p>・長く続いている。</p> <p>○簡易太鼓で長さを工夫して演奏する。</p> <p>・長いと緊張感がある。</p> <p>・おろちがいっぱいできてきて戦っている。</p> <p>○実際に劇化しておろち役を表現する。</p> <p>・長く続いているから戦いやすい。</p>	<p>・鬼囃子の音源を聴き、どんな様子をイメージするか発表させる。</p> <p>・長さが関係するか実際に簡易太鼓で演奏したり体でおろちを表現してみる。</p> <p>◎お互いの意見が共有できるように、整理して板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (音楽表現の創意工夫)</p> <p>神楽「大蛇」の鬼囃子鑑賞を基に、反復と強弱の効果を工夫しながら演奏している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・演奏・つぶやき】</p> </div>
<p>4. 映像を観ながら鬼囃子を体験し、感じたことを発表し確認する。</p> <p>・迫力がある。舞がきまっていた。</p> <p>・大蛇との戦いがはげしい。</p> <p>・どんどん強さが強くなっていった。</p> <p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>・大蛇退治の間ずっと鬼囃子なんだけど、どんどん戦いが盛り上がるし、神楽のすごさがずっとつづくリズムだと思った。</p> <p>・鬼囃子があるから大蛇の戦いのドキドキ感が見る人や、神楽をしている人にも伝わるといった。</p> <p>・島根にはいいお囃子があるので大切にしたい。</p>	<p>◎「映像を観て同じでしたか違いましたか。」と学級全体に問いかけ、違う部分として映像として感じ取れる神楽の迫力や、大蛇退治の緊張感について確かめていく。</p> <p>◎子どものふりかえりをもとに、長く続く鬼囃子が大蛇の表現の良さに結びついていくことに気づくようにしていく。</p>